

# げんでん ふれあい 福井

第28号

2007

SUMMER



継体大王

三国祭  
保存振興会

● おかげさまで財団設立10周年  
げんでんふれあい福井財団の役割と活動(上)

● 継体天皇即位1500年  
「越前出自の継体天皇(下)」

● あるさと福井  
人物シリーズ 「松平春嶽(下)」

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的としています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。



財団シンボルマーク

## CONTENTS — 28

おかげさまで財団設立10周年	…… 2
●げんでんふれあい福井財団の役割と活動(上)	…… 2
●継体天皇即位1500年	…… 4
「越前出自の継体天皇(下)」	…… 4
●ふるさと福井人物シリーズ	…… 6
「松平春嶽(下)」	…… 6
●平成18年度 風花菟筆文学賞	…… 8
財団賞 受賞作品紹介	…… 8
●ふくい伝統行事シリーズ	…… 10
「三國祭」	…… 10
●敦賀市立博物館誌上ギャラリー/22	…… 11
●福井の文学碑「詩人 則武三雄」	…… 12
●若狭路文化研究会 第3回フォーラム	…… 13
「王の舞さんと若狭路の民俗」	…… 13
●情報ファイル	…… 14

### FRONT COVER



福井県指定  
無形民俗文化財  
三國神社例大祭  
「三國祭」  
(坂井市)

北陸三大祭といわれている三國祭の中日の五月二十日(日)に多くの参拝者や見物客などが見守る中、三國神社に奉納する武者人形などで飾った山車(やまこ)六基が神社前の通りに勢揃いしました。午後一時に一番山車から順次に湊町三國の街なみを遊行していきます。

一番山車から五番山車は各町内自治会の奉納する勇壮で豪華なものです。表紙は、六番山車で、今年三國神社祭神の継体天皇が即位されてから千五百年を記念する年であることから三國祭保存振興会が奉納した山車です。鮮やかな古代衣装を身につけ、まが玉の首飾りと王冠をかぶった若き日の大王の雄姿を多くの見物の人々は、当時を想像しながら見入っていました。(関連記事(10頁)ふくい伝統行事シリーズ)

## おかげさまで 財団設立十周年

## げんでんふれあい福井財団の役割と活動(上)

— ふれあい・ゆとりの文化の郷土をめざして —

げんでんふれあい福井財団が平成九年十二月十九日に設立して本年度で十周年の記念すべき日を迎えます。

これまで財団が取り組んできました活動の内容を紹介します。

### 財団の設立

日本原子力発電所創立四十周年記念事業の一環として、福井県の美しい自然、歴史、人、生活などの地域資源を活用し、また地域文化の振興とふれあいとゆとりある郷土づくりをめざして、福井県内の芸術・文化事業やふれあい活動などを支援することにより地域社会の発展に役立ちたいという願いから「財団法人げんでんふれあい福井財団」を設立しました。

### 祝 日本原子力発電所創立40周年 財団設立記念パーティ



日本原子力発電所創立40周年と財団設立記念パーティーで挨拶する阿比留日本原電社長(平成10年)

「財団設立までの沿革」

平成9年10月27日 財団設立総会を開催  
平成9年10月31日 財団法人設立  
許可申請

### 財団の活動方針

財団は、地域との交流を通して芸術と文化の香り高いまちづくりとこれらを推進する人材の育成や交流等を行うことにより、地域文化の振興を図ります。

また、地域団体等の活動と連携しこれらを支援することにより地域との調和に配慮した地域づくりを進め、ゆとりとふれあいのある地域社会の実現に寄与することを目的としています。

創立以来これまで中・長期的な展望に立つて、それぞれの地域の皆さんと協働し

平成9年12月11日 福井県知事及び

福井県教育委員会  
から設立許可

平成9年12月19日 財団法人設立の登記

### 財団の事業内容

ながら絆を大切に、当財団の特色のある運営に努めてきました。

また、福井県内の地域の方々や文化団体等との交流と連携を密にして地域に根ざした信頼される財団として微力でありましたが地道な活動を続けています。

財団が行っている事業は次のとおりです。

#### 一、地域文化の振興に関する事業

(寄附行為第四条第一号)

- 伝統芸能、伝統行事(無形民俗文化財)の保護と後継者育成のための支援事業
- 郷土の歴史、文化遺産の伝承、啓発活動に支援
- 市民文化団体の活動に支援

- 芸術、音楽の専門家の派遣に支援
- (福井県高等学校文化連盟など)
- 国際文化交流団体の活動に支援
- 文化のまちづくりに支援

- 若狭路文化研究会が行う調査・研究事業に支援

# 国民文化祭・ふくい2005



オープニングフェスティバルで上演された  
交響合唱「ふくい物語」のフィナーレ(平成17年)

二、ふれあいとゆとりの創造に関する事業  
(寄附行為第四条第二号)

○福祉施設で「福祉演芸会」を巡回開催

○ボランティア団体の活動に支援

○文化サークルの活動に支援

○環境保全実践団体等の活動に支援

○小学生の海外絵画交流事業

○イギリスと敦賀市の小学生による作品展

○中学生の海外視察交流事業

三、芸術鑑賞機会の提供および文化創造  
事業 (寄附行為第四条第三号)

○優れた芸術公演・展示に支援

○市民参加型の芸術文化活動に支援

○文化講演会の開催

○能・狂言を楽しむ会の開催

○げんでんふれあいコンサートの開催

○ふくい県民文化祭参加育成支援

○分野別フェスティバル参加団体を公募し  
て助成

(平成十八年度から「ふくい県民総合文  
化祭」として新しくスタート)

○福井県高等学校総合文化祭育成支援

○第20回国民文化祭・ふくい2005並  
びに同フェスティバル参加育成支援

公募により、参加する団体に出演者の  
演技力等向上のための経費を助成。

○福井県文化振興事業団等が開催する音  
楽会等に協賛

○有望な新人芸術家の育成

高藤一郎さん(指揮者)平成10年~11年  
今川裕代さん(ピアノ)平成11年~13年

に海外での研修のための奨励金を支給

四、優れた文化活動に対する顕彰事業  
(寄附行為第四条第四号)

○デザイン文化振興のための顕彰

●「フクイデザインマインド・コンペティ  
ション」に協賛し、入賞者を表彰  
(平成十一年~平成十八年)

●「全国YOSAKOI表奏デザインコンペテ  
ションinふくい」に協賛し、入賞者  
を表彰(平成十七年~)

○げんでんふるさと文化賞及びげんでん  
芸術新人賞を授与

平成十一年度から毎年ふるさと文化賞  
三名、芸術新人賞一名を表彰

○「ふるさと大賞」写真コンテストを実施  
平成十年度から県内で公募し、ふるさ  
と大賞、ふるさと賞、優秀賞などを表彰  
し、県内の二会場で作品展を開催

○風花随筆文学賞に特別協賛

福井県出身の作家津村節子さんの随筆  
集「風花の街から」にちなんで「風花随  
筆文学賞」の優秀作品に「げんでんふれ  
あい福井財団賞」を授与

○福井県かきぞめ読書大会作品展に特別  
協賛

平成十五年から毎年県下小中高校生を  
対象とする公募作品の中から推薦作品に  
「げんでんふれあい福井財団賞」を贈呈

五、その他目的を達成するため必要な事業  
(寄附行為第五条第五号)

○広報誌「げんでんふれあい福井」の発行

(毎年三回発行)

県内の図書館、公民館、小、中、高等学校  
や公的機関、文化関係団体に配布

○財団カレンダーの作成

「ふるさと大賞」写真コンテストの入賞  
作品を使用し作成

○ホームページによる広報

六、財団の組織・運営

財団は、理事会、評議員会、監事からなり、  
県内の経済団体、文化団体等から選ばれ  
た理事等で構成、寄附行為をはじめ諸規  
定により厳正に運営しています。

## 文化の全国大会 本県で開催

財団設立から十一年の間に福井県内で  
大きな文化イベントが行われました。

一つは、「福のくにから ふくらむ文化  
羽ばたく未来」をテーマに、

「第20回国民文化祭・ふくい2005」が平  
成十七年十月二十二日から十一月三日ま  
で県内各地の会場

で展開されました。

世代や地域を超  
えて交流の輪を結  
び、新たな文化の  
感性と絆を深め大  
きな成果を収めま  
した。

「げんでんふれあい  
福井」(二〇〇五年  
第三十三号参照)

二つ目は、「第二  
十七回全国高等学校総合文化祭福井大会」

が平成十五年八月八日から十二日まで、  
県内を含め全国から約二九〇〇校の高校  
生約一万九千人が参加して、「心の泉より  
湧き出る文化よ大河となり海と成せ」を  
テーマに開かれました。県内各地で若い感



第20回国民文化祭・ふくい2005



第27回全国高等学校総合文化祭を祝う  
福井市内パレード(平成15年)

全国高等学校総合文化祭  
サンドーム福井で総合開会式(平成15年)

性、創造力が熱く燃え未来を切り開く力  
を示し、友情の輪と感動を深めた大会と  
なりました。

「げんでんふれあい福井」(二〇〇三年第十七号  
参照)

三つ目は、「第二十五回近畿高等学校総  
合文化祭福井大会」が「文化の帆を広げ、  
今こそさそふ無限に広がる大海原へ」をテ  
ーマに平成十七年十一月十二日から二十  
日まで近畿二府七県から約六千人の高校  
生が参加し県内十四会場での文化の競演を  
繰り広げました。

「げんでんふれあい福井」(二〇〇六年第二十四  
号参照)

この大きな大会で得た文化・芸術活動  
の成果を一過性のものでしないうつまた、  
次代に繋ぐ絶好の機会であることから、こ  
れまでの「ふくい県民文化祭」を平成十八

## ふくい県民総合文化祭に継承

年度から新しくふくいの文化の創造と継  
承するため「ふくい県民総合文化祭」とし  
再出発をしました。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

再出発をしました。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

財団は、これらの大会に参加する各団  
体等の演技力等向上のために今後も支援  
します。

# 越前出自の継体天皇(下)

## 伝説の生成

文:青木豊昭

### 筆者プロフィール



青木 豊昭氏  
Toyoaki Aoki

1944年、福井県生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立博物館学芸課長、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター次長、同所長を経て現在、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館長。共著「日本城郭大系11」「継体天皇の謎に挑む」「福井県史通史編一原始・古代」「鯖江市史通史編上」「前方後円墳集成中部編」「継体大王と越の国」「福井県不思議事典」他。近著(2006/8/1刊行)「越前若狭地域史の謎に挑む」

日本最初の宮撰国史の「日本書紀」(七二〇年)が、継体天皇越前出自説を採用していることもあって、越前各地に継体天皇ゆかりの各種の伝説がみられる。まず、これらの伝説を「越前若狭の伝説」(一九七〇年)などからみてみよう。

## 一 県内各地の伝説

①天王(福井市天王町)  
天王辺り一帯は大昔、泥海であった。それが、継体天皇の治水により田地となった。その御恩に感謝するためこの地を天王といふ。

②天皇堂(坂井市丸岡町女形倉)  
天皇堂には継体天皇が祭られている。昔、継体天皇が三國を開かれたとき、この地に来られて休憩された。その時のお腰掛けの石およびお手植えの桜がある。

③王屋敷(坂井市坂井町大味)  
昔、男大迹王が大湖の水を海へ流し、この地に宮殿を造り、農業の奨励に努められた。人々は近くに居を構え、「王見」と称した。それが「大味」になった。やがて王が都に上られたので宮殿の跡を王屋敷と称し今にいたる。



姫王の振姫終焉の地 坂井市春江町姫王  
男大迹王の母、振姫はこの地の「童子之城」に住み、そこで亡くなったという。その屋敷にあった大石を「袂我石」として、また、同じ屋敷にあった穴があいた石を「馬つなぎ石」とし、現在、碑が建てられ守られています。

④味真野御所(越前市池泉町)  
男大迹皇子潜離の跡という。池泉村の竹林の中にある。

⑤唐屋敷(姫屋敷)(坂井市春江町姫王)  
姫王は往古継体天皇の御母君振媛命の御在座になられた土地である。従来、姫屋敷と唱えられたのは、晩に宇「童子之城」の地のことであって、近くの字には「御堀」、「御城田」、「馬出」など当時を想ふ地名が今なお残っている。

⑥八王子山(越前市横市町)  
昔、男大迹王が当国におられたとき、八人の皇子があり、横市の西北の小さい丘の上に居住しておられた。よって、その丘を

八王子山という。八皇子のひとりである中皇子がこの地に「社」を建て、大山(山)を祭った。村の人々はこれを八皇子宮と称した。

⑦三國(坂井市三國町全域)  
継体天皇がまだ男大迹王のとき、味真野の皇子と号し、当国の守護として、大迹部におられた。そのおり海と湖水の境を掘り切るべしといわれ、この港のところが掘り落とすと、鍬子口から水を落とすごとく流れ落ちたので、その場所を鍬子口という。

⑧笏谷石(福井市加茂河原)  
笏谷石は昔、男大迹王の発見による。初



小山谷古墳 石棺 福井市足羽山  
現在の笏谷神社の丘陵上にあつたとされ、明治41年に発見されました。



取り上げた伝説地  
(地図番号は伝説番号と同じ)

め筋にて「そ」を掘ると良い石が出る。」と指示されたから笏谷石という。



漆器神社 鯖江市片山町、八幡神社境内  
祭神 世高親王  
祭神の世高親王は文徳天皇の皇子で漆器産業を奨励した人物です。親王は近江国小椋郷で漆器製作を奨励し、そこで修行した片山の職人が親王の遺徳を偲び、神社を創建したと伝えられます。

いで、竿に掛けられ、紙すきの術を教えられた。

以上、一〇の伝説を取り上げたが、これらは大きく六つに分類できる。

- 一、天王(皇)地名伝説 (①・②・③)
- 二、御所・王(大)屋敷地名伝説 (③・④)
- 三、后屋敷地名伝説 (⑤)
- 四、王子(皇子)地名伝説 (⑥)
- 五、治水伝説 (①・②・③・⑦・⑨)
- 六、産業始祖伝説
  - A、笏谷石 (⑧)
  - B、越前漆器 (⑩)
  - C、越前和紙 (⑪)

## 二 伝説の生成に ついての考察

次に、これら六つに分類できた継体天皇ゆかりの伝説の生成について考察してみよう。

### 一、天王(皇)地名伝説

越前の大字名・小字名に「天王」「天皇」「天王社」「天皇堂」などが数多くみられ、このような地名のところに継体天皇伝説が多く見られる。

これらの「天王(皇)」は、八坂神社(祇園社)の祭神である牛頭天王を祭っていたことを示しているのである。牛頭天王は行疫神として広く知られており、素戔嗚尊と同一視されている。しかし、疫病退散祈願の神として人々に広く信仰されたのである。

ところが、「天王」が「天皇」となったり、牛頭天王のことがすっかり忘れ去られた

りしてしまつと、これに越前出自の天皇として広く親しまれ、尊敬されていた継体天皇が結び付き、新しい伝承が生成されていったのである。③の伝説地・大味にも小字名「王堂」があるが、元は「天王堂」であった可能性が高い。



てんのう堂 坂井市丸町町女形谷  
大連大伴命村が男大連王を天皇として迎えに来たときの宮跡といわれます。

### 二、御所・王(大)屋敷地名伝説

「御所」「王(大)屋敷」地名の所にも、継体天皇ゆかりの伝説が多い。④の伝説地、味真野御所跡は鞍谷御所跡ともいうが、戦国大名朝倉氏の寄与であった鞍谷氏(斯波氏)の館(尊貴な方の館であったので御所と称したのであるが、その後、そのことが忘れ去られ、世阿弥(一三六二-一四四三年)の謡曲「花屋」の「越前の国味真野と申す所に、座候ふ大連部皇子…」と結びつき新しい伝承が生成されたのである。

「王屋敷」は「大屋敷」の変化したもので、後に、「王」と「男大連王」が結び付き伝承が生成されたのである。

### 三、后屋敷(姫屋敷)地名伝説

⑤の伝説は中世の平城・皇子之城跡の場所であつて、付近の小字名も示すとおりである。城跡内に「后屋敷」があつても不思議ではないが、「御屋敷」が変化した可能性もある。現在、春日神社があるが、この神社の四つの祭神のひとりが比売(姫)神であり、これらが、極楽命と結び付き伝承が生成されたのである。

### 四、王子(皇子)地名伝説

⑥の伝説の八王子は日吉山王七社の第四の八王子社のことと日吉神社が横市に所在したことから明白である。この由来が忘れられて、男大連王の八王子伝承が生成されたのである。日吉神社の祭神は大山咋命である。

### 五、治水伝説・六、産業始祖伝説

これらの諸伝説は男大連王(後の継体天皇)が越前の倭人の中の倭人であるため天皇や皇族と関係する地名を地域の誇りとして、内容豊かに創造されたものである。坂井平野の中央部に約二千年前に縄文人が、約二千年前になると弥生人が平野の河川沿いの微高地に至る所で生活していたことや笏谷石の採掘も男大連王(後の継体天皇)誕生(四五〇年)の約百年前に始まっていることが明らかになっていることから明白である。

それはともあれ、越前の民衆が数百年の昔より、地域の誇りとして継体天皇を敬仰してきたことは事実であり、その結果、数多くの伝説が生成されて発展し、今日に至っている。今後も大いに語り伝えてほしいものである。

おわり

### 川上御前(越前市大滝町)

継体天皇の御世、ある日、美しいお姫様が現われて郷民に申されるには、「この里は田畑が狭く、農業だけでは子孫を養うことは難しくろう。ゆえにわたしが製紙の業を授けよう。」とて、みすから上衣を脱

# 松平春嶽

リーダー的的確性・平和変革路線

(下)

文/三上一夫

## 新政への取り組み

維新政権の成立が、薩長討幕派の主導性によったとはいえ、主要な人事面で福井藩から議定には春嶽、また参与には、のちに起用されるものをきめて中根雪江・酒井十之丞・毛受・由利公正・青山貞の五名が選ばれたことは、同藩の公議政体路線の無視できない政治的立場を如実に表明するものであった。

しかも明治政権の基本方針を示す歴史的宣言書「五か条の御誓文」(慶応四年三月十四日)が、まさしく「公議輿論」尊重の福井藩論を見事顕現化したものであることは、旧

で、太政官や各省の要人のほとんどが、公卿と薩・長・土・肥で占められる。すでにこの時点で、福井藩出身の参与、青山・酒井・毛受・中根らも就任後わずか数ヶ月で、それぞれ辞職する羽目となり、横井小楠も同年一月五日、保守反動派のテロにより悲劇的な最期を遂げた。

また維新財政を一手に担った由利公正も、大隈重信ら官僚の反発により、同年二月十七日退場を余儀なくされた。

このさい春嶽は、同年七月八日、民政担当長官としての民部卿に就任し、さらに翌八月十一日、財政担当の大蔵卿を兼任する要職を担ったが、同年八月二十四日、教育分野の大学別当兼侍讀に転じた。

春嶽は学制の近代化をはかるため、洋学派の教育論を尊重し、それに反対する国漢学者の顔面にことめたが、事態の好転がみれなかったため、ついに意を決して政府に辞意を表した。こいつして明治三年七月十三日、本官および兼官を免ぜられ、中央政局からすつかり下野することになる。

福井勢が一掃されることにより、春嶽が強力に主導した同藩の「公議輿論」路線の開明的な政治理念もいよいよ地に落ちるわけである。

いっぽう明治政権の支配勢力は、かつての薩長の武力討幕派出身の有力官僚を中心に、国政をますます「私政」化し、「藩閥」化するのに注目したい。



岩倉貞視肖像(福井市立郷土歴史博物館蔵)

## 貫き通す政治信条

かつて京都東山の雪山歴史館を訪れた折に、春嶽の肖像画が展示され、その隣に

く、春嶽が自分の政治信条をあくまで貫き通すという確固不動の精神の持ち主になることと願ったものと、私なりに感じとった。

実は討幕派の巨頭岩倉貞視が慶応二年(一八六六)の段階で、ひそかに薩摩・長州両藩とともに、春嶽の協力を強く期待して、岩倉の「時務策」(「岩倉公実記」上)の一節に、次のとおり述べている。

徳川親藩はすべて油断ならないが、越老春嶽は、戊午(安政五年一八五八)以来「定

## 筆者プロフィール



三上一夫  
Kazuo Mikami

1921年朝鮮京城府生まれ。京城帝国大学史学科卒業。福井県立大野高等学校長・福井県教育研究所長などを経て、現在福井工業大学名誉教授。1989年に福井県文化賞、2004年に福井新聞文化賞を受賞。主要著書に『公武合体論の研究—越前藩幕末維新史分析』、『横井小楠の新政治社会像』。最近では『幕末維新と松平春嶽』など多数。

と「して、明治二年(一八六九)六月の「版籍奉還」に伴う官制改革

討幕派として「公議輿論」路線に堂々対決するだけの独自の政治綱領を持ち合わせなかったことを意味する。

### 任大学別当

右大臣従三位藤原朝賢大宣

大辨従三位藤原朝俊政奉行

明治二年己巳八月廿四日

### 兼任侍讀

右大臣従三位藤原朝賢大宣

大辨従三位藤原朝俊政奉行

明治二年己巳八月廿四日

大学別当兼侍讀 辞令

見動力、攘夷論勢が占ムルノ時代ニ於テモ、「言ノ旨」同従スルコト無ク、この一語、固不動の政見を貫き通して、(中略)春嶽が薩藩と「同心協力」して朝廷を補佐すれば、「天下ノ事」十二八九成ル」であらう。

とかく春嶽とはまったく政治的立場を異にする岩倉具視からも、春嶽の政治信条を貫き通す人柄に対して、きわめて高い評価が与えられたことが大いに着目されるべきである。

なにぶん薩長はじめ薩藩藩要人の政策論をみた場合、公武合体から尊攘論、尊攘から公武合体論と、とかく薩政への政権移行込みの手段とする向きが目立ち、いかにも権謀術策的であり、かつ虚々実々の術策を弄したりする。ところが春嶽の場合、あくまでも公武合体、開国和親をふまえた「公議論」路線を堅持しようとしただけに、一方において、全国情勢のほげしい政治的対立、抗争のなかでは、絶えず調整、融和的行動をとらざるを得なかったとみるべきであろう。

## 旺盛な情報収集力

例の勝海舟が、「私邸西ラランス」は濁狼(のど)のかわいた狼(也)、英は機虎(へうえた虎也)慶応二年仲秋、淀閣老あて手紙(と)まで看破したような鋭敏な対外情



松平春嶽肖像(福井市立郷土歴史博物館蔵)

勢のなかでこそ、春嶽としても長州再征の慶応期をもって、「国内分派」「国論二分」など内憂外患のピーク化した段階として、真剣に危惧したものといえよう。

春嶽が明治三年(一八七〇)七月下野したのちは、いっさいの政治活動から遠ざかながらも、重要な政治問題にかかわる情勢には、きわめて深い関心を寄せている。たとえば明治六年(一八七三)の征韓論を中心とする政治情勢についても、さまざま情報入手する。

とくに同年六月には、「伐韓一条八英公使パークス勳節により」と、これ日本を破弊せしめて、朝鮮へ水鳥のしぎとぶ員の両方が争って、第三者にその利を横取りされる。漁夫の收ノ策なるべしといふ者あり」と、イギリスの巧妙な極東戦略にかかわる極秘情報まが記録にとらめていられる。

要は「征韓」により日韓両国間の対立抗争を引きおこさせ、ついに両国を一括半植民地化ないし植民地化しようとするイギリス公使パークスの策謀的な企図を見抜く考え方である。

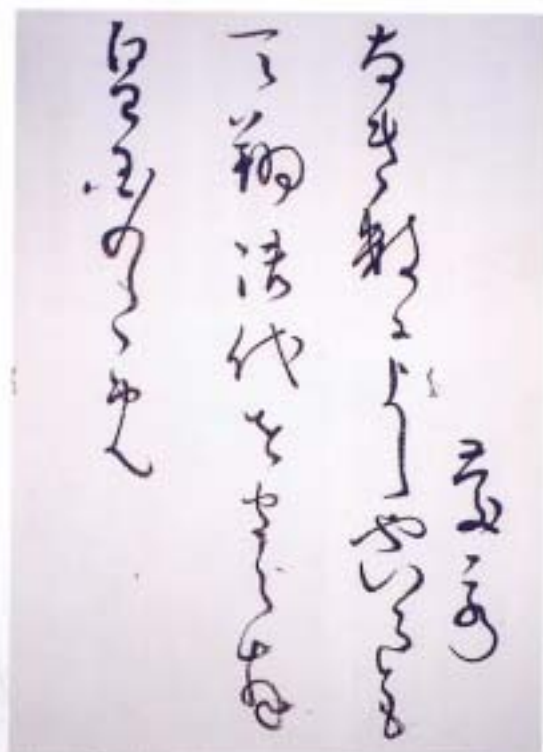
こうした春嶽の的確な情勢判断と、さまざま諸情報の収集・分析をふまえたもので、彼が幕末維新期を通じて、日本を

とりまく国際関係の基本的構図として、絶えず描きつづけたわけである。春嶽が中央政府からすっかり下野しながらも、わが国の重要な政治的課題についての情報収集力の旺盛なものには、まったく驚かされる。

## 福井への慕情

春嶽が中央政府からすっかり退場後の執筆活動に専念するなかで、墓参などときどき来福することもあったが、そのさいの領民との難しい逸話が伝えられている。

実は明治六年(一八七三)には、現県域を所管する敦賀県が成立したが、同九年に二分されて、本ノ芽嶺以北の七郡は石川県へ、同嶺以南の四郡は滋賀県に編入されて、敦賀県は消滅した。ところが十四年(一八八二)二月七日、前記十一郡で新たに福



春嶽の辞世の歌

を石川県に編入したのに、春嶽は心よく思っていないかのように、福井置県により彼の念願がようやくかなえられたのである。

ところで明治七年(一八七四)四月、春嶽は三国湊(現、坂井市)の桜谷神社(現、三国神社)の神職・氏子総代らの願いをいれて、三国の彫刻師島雪斎作の彼の肖像に添え、太刀一振を同社に贈った。

そのときの「立願文」に、春嶽のかつての福井藩領民へのひたむきな慕情が認められる。つまり自分の没後は、魂だけでも越前へかえり、領民の仕合せをしっかりと守りたいと記している。

井県が設置されたが、翌十五年の置県一周年にあたり、春嶽は福井県の誕生を心から喜ぶ手紙を、県令石黒務と少書記官多賀義行におくっている。

そのなかで、「龍興ノ幸福」は、越前の海の深さよりも深く、白山の山の高さよりも高いと喜ぶなど、旧藩地を慕う心情がみなぎっている。

かねて明治政権が一方的に旧福井藩領

春嶽の辞世の歌(明治二十三年(一八八九)六月二日)「なき数によしやいとち天理御代を守らむ 皇国のため」で、さきの「立願文」の文面とほぼ重なるだけに、幕末維新を通じて、藩政からさらに国政にかかわった春嶽の切実な宿願が込められたものといえる。

おわり

# 平成18年度 風花随筆文学賞

最優秀賞〈一般の部〉に高橋さん(埼玉県)

げんでんふれあい福井財団賞に土肥さん、田畑さん

平成18年度の「風花随筆文学賞」(同実行委員会主催、当財団特別協賛)の授賞式が3月11日、福井新聞社・風の森ホール(福井市大和田町)で行われました。

この賞は、福井市出身の芥川賞作家津村節子さんの随筆集「風花の街から」のタイトルを冠した文学賞で、平成9年度に創設、14年度から実行委員会形式に衣替えして発足、今回で10回目となりました。

応募作品の審査委員長を務められた津村節子さんから、最優秀賞、優秀賞、佳作に選ばれた18人が表彰されました。津村さんは、「文学賞が10回を迎え、応募数や格調の高い作品が増えていることをうれしく思います」と話され、入賞作品の一つひとつに講評されました。

今回は、国内外から一般の部1,597編、高校生の部2,776編の計4,373編と過去最多の応募が寄せられました。

最優秀賞、優秀賞の皆さんは、次のとおり。(敬称略)

## 一般の部

▽最優秀賞・福井県知事賞 高橋光行(埼玉県)「巨燈の家」  
▽優秀賞・福井新聞社賞 藤井仁司(京都府)「おおきに」  
▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞 与田久美子(長崎県)「走れ鳥鉄」  
▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 土肥春夫(福井県)「生きる」  
▽優秀賞 井上 潤(三重県)「三人脚」  
▽優秀賞 城山記井子(茨城県)「夏の日の思い出」

## 高校生の部

▽最優秀賞・県教育委員会賞 野島亜悠(福知山成美高校)「フラットホームに残った人」  
▽優秀賞・福井新聞社賞 小川知恵(仁愛女子高校)「十年前の手紙」  
▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞 八杉美紗子(藤島高校)「心からの笑顔」  
▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 田畑美美子(藤島高校)「夏のできごと」  
▽優秀賞 木原瑞希(武生商業高校)「絆」  
▽優秀賞 佐々木ちくさ(武生高校)「リンボン イス マイ ライフ」

# げんでんふれあい福井財団賞

## 受賞作品紹介

あと一週間で夏休みを迎える七月中旬、祖母が亡くなった。その日、私はいつものように学校へ行って部活を終えて帰ってきた。すると母はもう祖母のいる実家へ行っていて、父からその知らせを聞かされたのだ。

「え、なんじゃ!」

私が言った言葉はこれだった。祖母が病氣だといふことは聞いたこともなかったし、また七十代であったから、この反応は自然なものだったろう。その日の夜に大学生で福井を出ていた兄も帰ってきたが、兄も

た記憶しかない祖母。もともと悲しむのが当然だと思いつのに、私の生活に直接関わりがほとんどなかった祖母の死は、あまり影響がないのだとも感じていた。

祖母のいた地域は田舎で、四十九日まで一週間ごとに連夜とされる行事をしなければならず、私は再び祖母の家に行った。

祖母は死に、伯父は入院してしまつたため、広い家には誰もいなかった。止まっているせんまい式の時計も、祖母の亡くなる前の日の日付のままの目めくりカレンダーも、この家の時間が止まってしまったことを感

横浜の長男が末期癌で再起不能であることを知らされたのは、昨年九月十六日であった。

実はその前日、春江に住む長女からそれとなく、兄の発病と、その病状がかなり深刻なものらしいと聞かされてはいた。

と云うやら、単なる腰痛と誤って病院を訪れ、即入院を言い渡されて、嫁が父親の私にどう告げようかと思ひ感って義妹に相談してのことがあった。

本人が「くわしい結果は明日出るのだから親父には自分で報らせる。」といつのを、突然ショックを与えては…との心配がら「おつなひだりてい」。

翌日息詰る思いで待機していた私に、思いがけないほど元気な声で電話があった。

「末期癌、多発性骨転移やと。と云うやら逆縁になりそうですね。」  
或程度覚悟はしていたものの、それは正に青天の霹靂だった。



作家 津村節子さん(前列中央)を囲み表彰記念撮影

の真摯な態度に胸打たれた。心から慕ってくれているさまがありである。居合わせた上司によると「彼等は皆土肥君が育てた人たちです。」といふことだった。

海外出張が多く、子供たちとのふれ合いが思うに任せなかつたのが気がかりだらしく、入院の翌日から三人の娘と妻との交際日記が始まった。それは死の前日まで続いた。

北海道から沖縄まで、殆ど全国から次々にたくさんの方々が来てくれた。

それらの人達が例外なく、来た時の深刻な顔つきが笑顔になつていくのだった。

それといつのも本人が「悪いけどお先に失敬する。長い間ありがとう。」と札を述べ、実に楽しそうに想い出話にふけるので、相手もつい附込まれてしまつたのだ。

病室を出てから改めて「土肥君ほんとに助かるのですか?」と質問されることもしばしばだった。



事態をまたのみこめずに混乱した顔をしていた。何が何だか分からないまま、父に言われるままに制服やら何やらを車につめ込み、次の日の朝祖母がいるはずの高浜へと父と兄と三人で向かった。

いつもは祖母が迎えに来ていたが、今回は母が私たちを待っていてくれた。祖母と病気がちの伯父との二人暮らしでとても静かだった家が、親戚の人たちで賑がしかった。

## 高校生の部 優秀賞



「今、お化粧が終わったとさよならの。あなたたちも、おばあちゃんの顔、見てあげて。」と母に言われて、私は久しぶりに祖母の顔を見た。最後に見たのは今年の正月だったはずだが、記憶の中の祖母よりもずっと瘦せていて髪が白かったので驚いてしまった。そして祖母を目の前にしてやると、「もう逝ってしまったんだ。」と実感したのであった。お通夜もお葬式も、いつの間にか進んでいった。お葬式に来る人も親戚も、ほとんどが知らない人たちで、年に一度か二度しか会っていなかった私が一番前に並んでいいのだからかと思ったほど、なんだか他人事のように感じていた。最後のお別れでお花を供えたときはさすがに、「もう頭を見るのは最後なんだ。」と悲しい涙がでたが、式が終わって福井に帰ると、普段と全く変わらない生活が続いていた。

祖母が亡くなったというのに、気持ちが変わりこまなく普段でもおりに響かず私に、私自身ひどく薄情だと思った。正月やお盆しか会わなかった祖母、優し〜〜〜

じさせた。私は家の片づけを手伝った。冷蔵庫や風呂場などは、しばらく掃除されていなかったところがかがえた。

「体、しんどかったのかな。」

祖母の寂しい暮らしを想像すると悲しくなり、掃除をするのが辛かった。そして物置のようになっていた部屋に入った。そこには冬の暖房器具などと一緒、たくさん写真があった。十四年前に撮った祖父の写真といっしょに、私と兄の写真がた

## 夏のできごと

田畑 美美子 さん  
福井県立藤島高等学校

くさん並べられていた。七五三の写真、兄の野球のユニフォーム姿、私の中学の修学旅行のお土産の写真立てには兄が大学に行くときに私と並んで撮った写真が入られており、透明なビニール袋がかぶせられていた。ほろりをかぶらないように、それを見た瞬間、祖母は死んだんだという衝撃に襲われた。私に関わりがないはずがなかった。年に二回しか会わなくても、祖母はこの家でいつも私や兄を愛してくれていた。もうこの家で自分を思うてくれる人がいなくなってしまうことが、どれほど大きいことだろうか。何を思っても写真を眺めていたのかも、どうして死んだ祖父の持ち物を何も捨てずにとっておいたのかも、すべて何か祖母の思いがあったのだ。八十年弱の、もっ知ることができない祖母の思いの重さに、涙がとまらなかつた。

七年前、胃癌で全摘出手術を受け、一時絶望したものの、奇跡的に回復し、一昨年無事五年が経過した時はみんなでお祝をしたものだった。

それ以後も、電話のたびに「大丈夫か?」と聞いて、「今月の検査も異常なしだった。」との答えに安心したのはつい先月のことだったのだ。

「こちらも努めて平静を装って、それにしても元気な声やないか?」

## 一般の部 優秀賞



「さつき先生に叱られたことや、土肥さんそんなに呑気に構えている事態ではありませぬよだつて、ハッハッハ。」

半信半疑のまま翌日駆けつけて病室のドアを開くと、「やあ心配かけます。」とあっけらかんとした笑顔があった。

「定年になったら福井に帰ろうと思っていたけど駄目になった。あと少ししか時間がないけど、会社のことと、家族、友人達との別れだけはしっかりしておきたい。」

と平静そのものである。

主治医の説明は、  
「血小板が異常に少なく、今日死んでもおかしくない状態です。強いて言えば余命一〜二週間程度ですよ。」という冷然なものだった。

環境調査関係の会社の海外事業担当執行役員として、かなり重い責務を担っていた彼には、処理すべきことが山積していた。連日十人以上の会社の人たちがやって来たが、見舞の言葉を制するように引継ぎや打合せである。その中でも若い人たちが

そして彼はそのことを毎日克明に記録していた。死後数えて見たら延三百八十四日に達していた。

そんな中でも周囲への配慮とユーモアは失なわず「友人たちと話はせんならんし、交換日記は毎日四通も書かんならんし、忙しくてとても死んでる暇ない。」と冗談を言っほつた。

自らの運命を知りながらも少しも取り乱すことがなかったのも、家族や周囲への

## 生きる

土肥 春夫 さん  
永平寺町

気がばりだつたと思つ。

死後パソコンに自分の告別式へのメッセージが残されていたが、これも会社、友人、家族への実に行き届いた心づかいに満ちていた。

「この体で生きて居られるのが不思議」と医師たちが言うほどの状態の中で一ヶ月半頑張りつづけ、十一月一日、私と、妻、娘三人に見守られながら静かに息を引きとつた。

意識が混濁して僅か四十分のことだった。

五十一年の生涯を、息子は立派に生きてくれたと私は思ふ。がそれにもまして最後の一ヶ月半、壮絶とも言える生きざまを彼は示してくれた。会社の人たち、友人たち、それに家族に対してこの上もなく誠実に彼は生き、そして死んで行った。

告別式の後、友人の一人がホツリと言った言葉が心に沁みた。  
「人間としてこんなに立派に死ぬるものが。」

## 福井県指定無形民俗文化財

三國神社例大祭

## 「三國祭」

坂井市

北陸三大祭りの一つといわれ、福井県指定無形民俗文化財の坂井市三國神社の例大祭、「三國祭」は、5月19日神社拝殿で神事が営まれ、巫子たちの浦安の舞の奉納で祭りが幕明けします。

中日の20日には、呼び物の武者人形が載る勇壮な曳き山車が町を練り歩き、湊町の往時の繁栄や活気を今に伝える祭りです。本年も21日までの3日間盛大に繰り広げられました。

## 湊町の心意気盛り上がる

三國祭の中日祭(五月二十日)は、三味線・笛・太鼓の囃子にのせて三國神社に奉納する山車六基が神社前の通りに集結します。

正午に神輿行列発幸祭と山車発幸祭が執り行われ、午後一時に一番山車を先頭に巡行が始まります。二番山車の次に継体天皇のご神体を載せた船形神輿が地元の青年連に担がれ威勢よく出発、続く



継体天皇のご神体が載る船形神輿

て三國神社の祭神大山咋命のご神体の載る大神輿が練り歩きます。

続いて勇壮な武者人形や華やかな装束で飾られた三番山車から六番山車が若者や子供達の囃子とともに古き面影が残る三國湊の町並をにぎやかに民家の軒先をかすめながら豪快に巡行します。

夕方は、民家の軒先につるされた提灯に明りがともり、幻想的で柔らかな光の中を高張提灯に先導されて山車は進みます。

今年の中日祭は、日曜日であり、例年以上に詰め掛けた多くの見物客は夜遅くまで楽しんでいました。

## 三國の曳山車

祭りの自主である曳き山車は宝暦年間(一七五〇年頃)に笠鉾や鉾山車が曳かれたのが始まりのようです。

その後、北前船の交易などで三國湊が隆盛するとともに祭りは賑やかにになり、次第に大きさや出来栄を競い、武者人形を載せるようになりました。

山車の大きさは、明治中期には約11m(人形8.5m)にもなりましたが、明治41年に電話線が布設されたことから、現在の約6.5m(人形4.0m)の大きさに定着し



五番山車 三國志に登場する「張飛翼徳」

ました。三國の山車屋台の特徴は、町内の道路が狭く、山車を曳くためには鋭角に曲がる必要があることから台車が三輪になっています。

三國に十八台の山車屋台があり各町内で保管されていますが、毎年順番に従い六基が奉納されます。今年奉納された六基の山車を見てみよう。

五番山車(森町区)は、坂井市誕生一周年を記念して、一重啓上で知られる丸岡城六代目城主の父(本多

作左衛門)の人形山車です。

武番山車(玉井区)は、三國とがって交流があった戦国大名朝倉氏一族との昔を思い「朝倉義景」の人形山車です。

参番山車(滝本区)は、今年のNHK大河ドラマでおなじみの武田信玄の重臣「山本勘助」の人形山車です。四番山車(桜町区)は、

山車屋台は、文化八年(一八一一年)に製作され、現存している最も古いもので、三國神社の社地桜谷の桜に因み、また火伏せの願いを込めた「永代桜山車」です。五番山車(元新区)は、

中国の三國志に登場する武将で「張飛翼徳」の人形山車です。

六番山車(三國祭保存振興会)は、三國神社の祭神である継体天皇(男大迹王)が西暦五〇七年に樟葉宮(大阪府枚方市)で天皇に即位されてから今年で一五〇〇年を迎えることから若き日の「継体大王」像の山車です。

## 三國神社の由来

三國神社は、大山咋命と継体天皇を祭神としています。

天文九年(一五四〇年)湊の住人、板津清兵衛が高柳村より流れて来た御神体を拾い上げ正智院に納める。

天文十三年(一五四四年)院主・造性小社を建立し、永禄七年(一五六四年)造性の弟子、造元國中を勧進し桜谷を開き、山王宮を建立しました。山王宮の祭神が大山咋命です。

明治五年に山王宮を桜谷神社と改め、興ヶ丘にあった水門神社の御神体・継体天皇を桜谷神社に合祀しました。さら

に明治十八年に三國神社と改称し現在に至っています。本記事は、取材のほか三國祭保存振興会のホームページ「三國祭」を参考にさせていただきます。



三國神社 鳥居と隨身門

## 海魚図 一幅

幸野 煤嶺 筆

- 絹本淡彩
- 縦119.8cm×横49.5cm
- 江戸後期～明治
- 落款 千青龍館東麓下 幸梅嶺寫
- 印章 「幸野直豊」白文方印 「梅嶺」朱文方印
- 備考 箱書 竹内栖鳳 大正5年

大きな波がうねる海中には、イシダイやマダイなど、様々な魚が遊泳する姿がみえます。深海に生息するアンコウが他の魚に混ざって泳ぐところや、波間にかすかなシルエットをうかがひあがらせているタコなど、ユーモアあふれる魚たちの様相は、見るものを海中へと誘ってくれるかのようです。

このような群魚をモチーフとする作品は、当時の内山四条派の画家が得意とするところであり、煤嶺の最初の師である中島来章も「遊鯉図」(東京国立博物館蔵)を描いています。煤嶺も、群魚を描いた作品を数点残しており、やはり師である来章の影響によるところが大きいと考えられます。

なお、本図は落款の「幸梅嶺寫」から、煤嶺が「梅」の字を用いて「梅嶺」と号した明治五～六年頃(煤嶺二十九歳～三十歳)までに制作された、若拙の作品と判明します。

筆者の幸野煤嶺は、敦賀出身で京都の面替商を継いだ、安田四郎兵衛の第三子として出生。はじめ円山派の中島来章の門に入り、後に四



## 福井の文学碑

詩人 則武三雄

坂井市三国町安島の東尋坊にある荒磯遊歩道沿いに、詩人則武三雄の詩碑が青い日本海に向かって波音と風を受けて美しい自然と緑に囲まれて建立されています。碑には「三国」の詩文が刻まれています。

## 三 国

しらのなみはよせてかえすぞ二十四時  
悔恨のくらいおもいに似て  
反さしひとのごとくくひるがえる

あか三國 あかい海鳥のわが物にいて  
かなしげに嘆ばわりしが  
きつてかえらず

思えばわれから不仲をもとめるに  
似ていた

似ていた

さればわが不幸の数々は  
このなみのはたてにゆだねて  
ながく汐騒にかえしてやろう  
きつてかえらず きつてかえらず  
きつてかえらず



日本海に向かって建つ「詩碑」

## 地方を愛し、情熱を燃した詩人

詩人則武三雄(本名一雄)は、明治四十二年鳥取県米子市で生まれ、幼くして父を亡くし、米子市や倉吉市で少年期を過ごす。昭和三年九月、十九歳で当時の朝鮮に渡り、朝鮮総督府嘱託として勤務しな



戦後の福井の文学の先駆者 則武三雄

がら「国民文学」にたびたび寄稿するなど文学活動を行い、昭和二十年に帰国するまで鴨緑江を背景とした人生と文学があった。昭和十五年に朝鮮旅行をしてきた詩人三好達治と出会い、朝鮮の各地を三月月間案内して遊んだことで知遇を得て、三好達治を生連の師とすることになった。

昭和二十年十月、母と共に帰国、三国に渡開していた三好達治の招きで昭和二十一年二月から三国の住人となりその後、昭和二十五年に福井市に居を移して福井に根を下した文学活動が始まった。昭和二十五年から福井県立図書館

館の司書として勤務し、翌年に北荘文庫を創設、詩集「浪渚中隊」を刊行した。以後、北荘文庫を拠点にして、独自の文学活動を展開し、地方主義を貫き、福井の地で多くの詩人を育み、戦後福井の文学界のリーダーとして活躍されました。

昭和二十九年、県立図書館を定年退職し、同年に越前和紙を題材にした詩集「紙の本」を刊行し、その後、詩集「薊」(昭和五十三年)、「小説私の鴨緑江」(昭和五十五年)、「三好達治と私」(昭和五十七年)、「詩集三雄詩集」(昭和五十九年)、「詩集「青春」(昭和六十二年)などを次々と発刊した。

平成元年十二月に福井県立病院に入院、三百四十五日の闘病生活にもベッドで詩を書き続け、福井の多くの詩人を育て、多大な文学的業績を残して平成二年十一月に八十一歳で生涯を終えました。

第十七作目となった遺稿詩集「県立病院五病棟」が則武先生を慕う「遺稿詩集刊行会」によって平成四年九月に刊行された。

## 文学記念コーナー

福井市北今泉町にある福井市円山公民館に則武三雄文学記念コーナーが平成九年から開かれており多くの人々に親しまれています。

このコーナーには、遺品となった原稿や詩集などの刊行物のすべてが展示されているほか則武三雄の活躍を知ることので



円山公民館内の記念コーナー

きる資料が保管されています。

福井が生んだ詩人広部英二さんは、則武三雄先生は、戦後福井文学界の先駆者として記すべき業績を下した。……(略)……先生は地方主義を提唱し、戦後福井の文学の拠点として創設主宰した北荘文庫を中心に活動し、文学不毛の地に一粒一粒文学の種をまき、多くの後進を手塩にかけて育て上げた。先生が存在がなければ今日の福井の文学界の状況は有り得なかった。(後段略)……と記しています。(則武三雄文学記念コーナーのリーフレットより)

## 十七回目の「薊」

平成十九年四月二十九日(昭和の日)に則武三雄先生を偲ぶ「薊」が、爽やかな晴天のもと、文学詩碑の前で県内詩人会の皆さんと花枝夫

人・長男の雄雄氏ら約四十人が出席して営まれました。三国高校図書委員の上田有佳里さんと岡田恵夢さんが詩碑に刻まれている「三国」などを情緒あふれる朗読をし、全員で昭和で則武先生を偲んでいました。毎年四月二十九日に営んでおり、今年は十七回目、出席した詩人の荒川洋治さん、岡崎純さん、川上明日夫さんをはじめ関係者の皆さんらの思い出話に花が咲き、則武さんの素晴らしい詩が後世に継がれていくことを願っていました。



日本海を前にして「薊」営む

## 「王の舞さんと若狭路の民俗」

～錦耕三と小林一男の交流をめぐって～

若狭地方一円に伝わる伝説芸能「王の舞」の調査研究に大きな功績を残した錦耕三さんと小林一男さんの二人の民俗学者を偲び、「王の舞」として若狭路の民俗」と題して若狭路文化研究会の第三回フォーラム(同会主催、当財団共催)が三月十日(土)、美浜町中央公民館で、各地区の王の舞保存会や県内外からの文化関係者ら約百二十人が参加して開かれました。

最初に、小林一男氏の

の自宅に保管されていた錦耕三氏の調査通稿の編集に携わった千葉大学教授の橋本裕之氏が「錦耕三が見た王の舞」と題して基調講演を行いました。

橋本さんは弥美神社の王の舞にたまたま出会い、小林一男さんを通じて錦さんを知り、残されていた通稿を活用することを探案し約十五年間を費やし出版した経過をたどりました。錦さんが戦中戦後を通じて三方郡内を歩き王の舞を中心に民俗学の記録を書き続け、また深い絆で結ばれていた小林さんと二人が地域の誇りに

んと若狭路の民  
と小林一男の交流をめぐって



前川げんでんふれあい福井財団  
理事長開会の挨拶

昭和三年国学院大学卒業、日本の民俗学  
「錦耕三氏」  
明治四十年(一九〇七年)大阪市生れ、  
昭和三年国学院大学卒業、日本の民俗学



「王の舞」の伝承に貢献された錦さんと小林さんを賛える  
パネリストの皆さん

思える文化財を後世に伝えようとした偉業を紹介していました。

次いで、パネルディスカッションでは、生前綿密な取材活動をし、多くの資料を残された錦耕三さんと、友人として地元でその活動を支えた美浜町新庄の小林一男さんの活躍とその遺産のすばらしさと地域の伝統を継承していくことの重要性を二人のエピソードをまじえ語り合いました。

【主催者】若狭路文化研究会

●平成十一年四月発定、金田久雄会長、会員数二十五名

●若狭地方に多く伝え残されている貴重な民俗文化の保存・継承していくための資料の収集や調査活動を実施している、これまで「財げんでんふれあい福井財団」の支援により「福井県神社明細帳(福井版)」の復刻、「若州良民伝」の復刻、錦耕三氏の遺稿集「若狭路の祭り」と芸能、「若狭路の暮らしと民俗」の編集・発行、デオ「若狭路の王の舞」を製作

国文学の研究者である折口信夫氏に師事し、芸能史を研究、大学卒業後朝日新聞社に入社、戦時中、福井支局に勤務、三方郡内に伝わる「王の舞」を十五年間に亘り現地調査を続け神事や村の組織などをスケッチを入れた詳細な記録を残し、昭和二十六年一月五十四才で生涯を閉じました。

【小林一男氏】

大正九年(一九二〇年)美浜町生れ、美浜町文化財保護委員、福井県文化財保護審議会委員などを歴任は、若い日に錦耕三氏と出会ったことで民俗学の道に入る。昭和二十年五月一日王の舞の調査に来訪した錦氏を弥美神社へ案内したのが最初の出会い、ともに研究を続け、錦氏の死後一千枚に及ぶ原稿を保管し出版を働きかけてきました。平成十九年一月逝去されました。

## 錦耕三遺稿集出版

平成四年(一九九二年)橋本裕之氏が小林一男氏から通稿を預り整理作業を始め



錦耕三遺稿集(全二巻)

て十四年後、錦氏の死後からは実に四十五年を経過して小林氏の念願であった「錦耕三遺稿集」が橋本裕之さんと垣東

敏博さんの編集によって平成十六年度と平成十七年度の二ヶ年で完成しました。

「若狭路の暮らしと民俗」錦耕三遺稿集Ⅰ  
平成十七年三月発行

「若狭路の祭り」と民俗」錦耕三遺稿集Ⅱ  
平成十八年三月発行

弥美神社例大祭  
「王の舞」奉納

美浜町宮代の弥美神社の例大祭が五月一日に行われ、五穀豊穡を祈って「大御幣押し」や「王の舞」「獅子舞」が奉納されました。

白装束姿の男衆四十人が四時間以上激闘する「大御幣押し」の儀式に次いで県無形民俗文化財に指定されている「王の舞」を今年も、同町麻生の上村光裕さんが真っ赤な袷を着てタテサゲという前垂れと足



優雅に舞う「王の舞」(美浜町 弥美神社)

袋で、髷高朱面に鳳凰の冠をつけ、腰に短刀と白扇を差し、一八〇余りの鉾を持つて笛や太鼓の囀りのリズムに合わせて優雅に舞い、境内に集った多くの住民や観光客を魅了していました。

「王の舞」の鉾で地面に輪を描くような仕草をしたり、抱きかかえるような連続した動きは、これから始まる農耕に先立ち、大地の精霊を呼び覚まし、今年も良い年であることを祈念するための舞と言われています。

## 財団設立10周年記念 げんでんふれあいコンサート2007

美輪明宏音楽会〈愛〉開催



心溢れるトークと熱唱(第1部)



上品で優雅で華麗に「熱演の美輪さん(第2部)」

ステージが盛り上げられ、第一部では、美輪さんの出身地が長崎であることが「長崎育ち」で

始まり、「いとしの線巴里」、美しく迫力のある「金色の星」、感情溢れる「ヨイトマケの唄」など七曲を歌い、第二部は、シャンソンの名曲で「サンジャンの恋人」、「思い出のサントロベ」、「恋心」。「ボーン・ウ・ヤージュ」、「愛の讃歌」など六曲を優雅で華麗な衣装とロマンティック溢れる演技を入れて熱唱。



絵本「あいにことばはもういちど」の表紙

「もういちど」の意味は世界中の人に「おんどをもう一度さげよう」。

財団設立10周年および日本原子力発電所創立50周年記念事業として「げんでんふれあいコンサート2007」美輪明宏音楽会〈愛〉を七月十日(福井市のフェニックスプラザ)で開催しました。

美輪明宏さんの長い芸能とテレビの人気番組に出演していることもあり、チケットを発売して一週間で完売するという人気で、当日は会場に三千人のファンが詰めかけ、満員の午後七時に開演しました。

美輪明宏さんならではのドラマティックで「コーシャス」で叙情溢れる歌を二曲づつに、心豊かなトークを入れて熱演されました。

ゲーム機から飛び出した恐竜「フラ」と「ピントン」が、冬に半そでを着ているピントンの父を不審に思い、父の会社へ探検に出かける。そこには寒がりの社長がいて暖房のききすぎの部屋で「フラ」がたおれこむ。窓を開いて温度を下げる……。「もういちど」の意味は世界中の人に「おんどをもう一度さげよう」。

## 平成19年度 財団助成事業決まる

文化団体などに2,500万円交付

県内の文化団体等の事業活動を支援する平成十九年度の財団助成事業は、四月末日で公募申請を締め切り、四月三日と五月十五日の二回に分けて選考委員会を開催し、慎重に審査を行いました。その結果の答申を受けて、本年度は、二二三の文化団体等に対し、二、五〇〇万円の助成交付金を決定しました。

## 平成19年度 財団助成事業交付金一覧

事業大別	助成対象事業	団体数	助成交付金
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化の保存伝承事業	16	3,420
	市民文化団体等の活動事業	63	10,750
	国際文化交流事業	4	650
	文化アドバイザー派遣事業	1	900
	文化のまちづくり事業	19	3,050
ふれあい及びゆとりの創造事業	ボランティア団体等活動事業	10	1,000
	各種文化サークル活動事業	6	600
	環境保全等地域づくり事業	4	760
芸術鑑賞機会の提供及び文化創造事業	優れた芸術公演・展示開催事業	2	600
	市民参加型芸術文化活動事業	7	1,770
	福井県高等学校総合文化祭育成事業	1	1,500
	合計	133	25,000

## 「地球にやさしく」を考えよう

絵本を幼稚園と小学校に贈呈



絵本の朗読会(敦賀市立北小学校で)

国が推進する地球温暖化防止推進運動と、県の「LOVE・アース・ふくい」環境キャンペーンに呼応して、このほど、子どもたちに環

## 地球環境守る大切さを実感

村山貞司氏(気象予報士)招き文化講演会

いきいきと豊かに暮らせる社会を築くため、男女共同参画社会を目指して活動している「つるが男女参画ネットワーク」と当財団が主催して、五月十九日(土)、敦賀市男女共同参画センターにおいて、気象予報士で元NHKの気象キャスターの村山貞司氏を招き、「地球温暖化と異常気象」と題して文化講演会を開きました。



「今年の夏は猛暑になる可能性高い」と語る村山さん

村山さんは、近年日本列島を襲う集中豪雨の多さや昨年のオーストラリアの干ばつで世界的に小麦の価格が上昇したことなど最近起きている異常気象について説明し、このままでは今後日本周辺の気温が上昇し植物や水、食糧エネルギーにも影響を及ぼすことを指摘。

二酸化炭素の排出を少なくすること、これを吸収するための植林や個人個人も環境保全の知識を身につけ家庭においても省エネ家電を使うこと、さらに日本の環境技術を世界中に広めようと話され会場に集まった約一四〇人は、環境を守る大切さを実感していました。

## 「シルクロード弦奏紀行」演奏

美しく壮大な大地の響・山河の風



悠々の響き妙なる音色で潤杰さん(左)熱演

中国琵琶奏者の潤杰(ジュンキョウ)さんによるコンサート「シルクロード弦奏紀行」が敦賀県文化振興事業団主催、げんでんふれあい福井財団の十周年記念協

賛事業として六月八日県立音楽堂で開かれました。

新編ウイグルの代表的なラフソング「バラ」で幕開け。曲の合間には、曲目の説明、楽器や演奏を紹介していました。

潤杰さんがシルクロードをイメージして作曲した「遠くロード」、「ウイグルの旅」を中国琵琶に中国伝統楽器の揚琴、古筝、二胡、ピアノ、パーカッションが加わり、壮大で美しいシルクロードを旅しているような響きに約四百人の聴衆は最高潮に達していました。

「蘇州夜曲」や「夜来香」など馴染の曲を加え全十八曲を繊細にそして溢れるパワーで演奏し、最後に、アンコールに込められた「ふるさと」を奏で、会場の皆さんは、合唱してすばらしいコンサートを楽しまました。

## 文化講演会「自分らしく生きる」

梶浦楓子氏(タレント)語る

当財団と福井県連合婦人会が共催して七月一日、福井市の福井県生活学習館においてタレントの梶浦楓子さんを招き、「自分らしく生きる」と題して文化講演会を開きました。

梶浦さんは京都市在住で関西学院大学フランス文学科在学中に「ユー・ハーフ」の道に入り、以来天職として仕事をしていた経緯を気さくな語り口で「ユーモアたっぷり」に話されました。

また、師としていたカルセル麻紀さんとの出会いから家族ぐるみにつき合いたく、自分が歩んできた道を明るいタッチですべてオープンに話していました。



ユーモアたっぷりに梶浦さん

会場の約三五〇人の客は長身で美人の梶浦さんのテンポが早い、おもしろい話ぶりを興味津々に聞き入っていました。

終了後も、生活学習館の前で握手を求められたり、記念写真を撮るなどお客さんとのふれあいを大切にしていました。

## 読者アンケートのまとめ

「げんでんふれあい福井(第26号)」について

財団情報誌第26号(平成18年11月発行)のアンケートに、回答をいただきありがとうございました。

### 第26号で良かった記事

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| ○ ぶくい県民総合文化祭開幕        | 3名  |
| ○ 越前出自の慰体天皇(上)        | 15名 |
| ○ ふるさと人物シリーズ「松平春嶽(上)」 | 16名 |
| ○ 敦賀市中学生イギリス親善派遣帰国座談会 | 4名  |
| ○ ぶくいの伝統芸能シリーズ「明神ばやし」 | 7名  |
| ○ 福井の文学碑「韓国船遭難救護の碑」   | 10名 |

### 本誌へのご意見、ご要望

- 表紙の「民俗芸能」シリーズ、大変気に入っています。
- 慰体天皇の記事、大変参考になりました。
- 福井の文学碑は、地域住民の親しい心が感動でした。
- 情報が多岐にあり、楽しく読ませてもらっています。
- 文章、解説が簡潔で読みやすい。
- 活字の大きさが丁度良い、読みやすい。
- 写真(絵画も含めて)がきれいです。
- これからも地域に根づく人々の紹介楽しみにしています。
- 県内各地の古い事で、皆さんが知らないことも教えてほしい。
- 福井の食文化、人物を取り上げ、県外への情報発信誌となしてほしい。
- 財団助成活動団体の活躍内容、結果等を本誌で公表してほしい。

これから誌面の充実に努めてまいりますので、今後ともご支援を賜われますようお願いいたします。(編集係)



## 募集要項

- テーマ 「ふるさと自慢」～ふくいの魅力～
- 部門 学生の部(高校生以上)、一般の部、の2部門
- 資格 ①福井県に在住又は、学校・勤務先が福井県内であること。  
②写真の専門家(プロカメラマン)でないこと。
- 作品 応募点数は制限しません。ただし応募者本人が県内で2005～2007年に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。
- 作品の規格 カラー・モノクロで、四ッ切、又は四ッ切Wの単写真のみとします。(デジタルプリントも同様)
- 応募方法 所定の専用応募用紙に必要事項を記入し作品の裏に、セロテープで貼って提出してください。
- 締切 平成19年12月7日(金) 当日消印有効
- 発表 平成20年1月下旬  
※入賞者にはご通知いたします。
- 表彰 表彰式(優秀賞以上)  
平成20年2月7日(木) 〈ふるさとの日〉
- 展示会 敦賀、福井市の2会場にて写真展を開催し、作品を広く県民の皆さんに公開します。
- その他 ①デジタルカメラの作品は合成や特殊加工がないもののみ可とします。  
②入賞者には、ネガ・リバーサル等原版(デジタルカメラの場合は未処理データ【原画】をCDなどにコピーしたもの)の提出を求めます。  
③応募作品は返却しません。但し、返却を希望される方は「返却希望」と封筒に朱書きし、500円切手を同封してください。  
④入賞、入選作品の使用・著作権は主催者に帰属し、財団のPR活動等に使用させていただきます。
- 応募先 問合せ先 ①914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番16号(財)げんでんふれあい福井財団  
Tel.(0770)21-0291  
H.P.アドレス <http://www.genden.or.jp>  
②福井県カメラ商組合及び  
県内フジカラー取扱店

## 第10回 2007 ふるさと大賞 写真コンテスト



第9回 ふるさと大賞作品「迎春」野尻 時子氏(坂井市)

## 賞金

ふるさと大賞	1点	賞状・トロフィー・賞金30万円 <small>※但し、高校生の場合は、賞金相当額の記念品とする。</small>
ふるさと賞	3点	賞状・トロフィー・賞金 <small>学生:5万円1点/一般:10万円2点</small>
優秀賞	5点	賞状・トロフィー・賞金 <small>学生:3万円2点/一般:5万円3点</small>
入選	30点	記念品 <small>学生:記念品5点/一般:記念品25点</small>
佳作	30点	記念品 <small>学生:記念品5点/一般:記念品25点</small>

### 主催:(財)げんでんふれあい福井財団

後援: 福井県/福井県教育委員会/敦賀市/敦賀市教育委員会/(社)福井県文化協議会/福井県高等学校文化連盟/(株)福井新聞社  
福井放送(株)/福井テレビジョン放送(株)/(株)福井ケーブルネットワーク  
協賛: 福井県カメラ商組合/富士写真フィルム(株)/フジカラー北陸(株)

## 財団イベント INFORMATION

ビートフェニックス	sowelu・D-51・Rie Fu Scoobie Do・アンダーグラフ	8/24(金)	福井市 エルバ 屋上駐車場特設ステージ	FM福井主催、財団協賛 (前売り)4,000円
あわら親月の夕べ	伝統芸能 郷土芸能、他	9/1(土)	あわら市 北湯湖畔特設ステージ	あわら市文化協議会主催 財団協賛、無料
福井県民音楽祭	福井県新人演奏会30周年記念 &ベーターベン「歡喜の歌」 &親月の夕、他	9/16(日)～ 24(祝・月)	県立音楽堂	福井県文化事業団主催 財団協賛、有料(一部無料)
第11回福祉演芸会	揚野パンリ(コメディパフォーマンス) 林田麻友子(歌手)	10/9(火) ～11(木)	県内6福祉施設	財団主催、無料
狂言を楽しむ会	茂山一門、他	11/20(火)	敦賀市 プラザ萬象	財団主催、無料